

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。

b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。

ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。

b 加点要素でも減点要素でもない部分もありえます。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

*字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「…とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたものの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

□ (評論) 採点基準 (合計 60点)

問一 各1点 (計5点)

- 1 消滅
- 2 立脚
- 3 発揮
- 4 軟化
- 5 暗黙

問二 14点 (模範解答例)

A ○4点

人間の本性を自然本性と捉え、

B ○5点

人間が人間である限り不変のもので、

C ○5点

時代や場所を超え存立する普遍性を持つという特性。 (55字)

※A・B・Cに関して部分採点

A 「人間の本性を自然本性と捉え」(4点)

※自然主義の見方における「人間の本性」についての条件の説明。

×「自然界から見た特性で」は、「人間の本性が自然本性」であること」を説明しているわけではないので×0点。

×「人間すべてに共通する人類性は」は、「自然本性」であることを説明しているわけではないので×0点。

B 「人間が人間である限り不変のもので」(5点)

※自然主義の見方における「人間の本性」について、指示語の「一文前の内容(不変であること)の説明。

△人間が人間である限り不変であるという(Cの観点の「普遍性を持つ特性」に続く答案)は、「不変」と「普遍」の意味上の区別がされていないと取れるので▲2点減点で△3点。

C 「時代や場所を超え存立する普遍性を持つという特性」(5点)

※自然主義の見方における「人間の本性」について、指示語の「一文前の内容(普遍性を持つこと)の説明。

△「普遍性を持つという特性」は、普遍性の内容の説明が不足しているので▲2点減点で△3点。

問三 12点 (模範解答例)

A ○4点

普遍的で永続的な

B ○4点

人間の倫理的善悪を判定する基準を見出し、

C ○4点

それに従うということ。 (39字)

※A・B・Cに関して部分採点

A 「普遍的で永続的な」(4点)

※傍線部直前の指示語「それ」の内容(普遍性・永続性を持つこと)の説明。

△「普遍的な」は、「永続的」であることに触れていないので▲2点減点で△2点。

△「いつの時代にも共通する」は、「永続的」の説明のみと考えられるので▲2点減点で△2点。

B 「人間の倫理的善悪を判定する基準を見出し」(4点)

※傍線部直前の指示語「それ」の内容(倫理的善悪の基準を見出すこと)の説明。

△「倫理」は、「善悪の基準」であることが説明されていないので▲2点減点で△2点。

*Cの観点がなく、ここまでで終わっている場合、A・Bまでの観点が十分に説明されていても(もしくは部分的に説明されていても)、×0点とする。

「人間らしさ」は「」の基準を持っていること」とすることが必要になる。それを示す表現がCの観点である。

つまり、ここまでの説明で終わっているものは「人間らしさ」を説明していることにならないので、すべて×0点。

C 「それに従うということ」(4点)

※A・Bを持つために「人間らしさ」があることの説明。

○「(Bの観点の)基準を持つこと」も可。

問四 11点 (模範解答例)

A ○3点

道徳は

B ○4点

時代や場所によって異なり、複数存在する

C ○4点

と考えること。(29字)

※A・B・Cに関して部分採点

A 「道徳は」(3点)

※傍線部の主語(もしくはは目的語)である「道徳」の指摘。

B 「時代や場所によって異なり、複数存在する」(4点)

※「相対的」の文脈上の指摘と意味の説明。

○「時代や民族・地域によって異なり、複数存在する」も可。

△「時代や場所によって異なり」のみの解答は、「相対的」の意味について触れていないので▲2点減点で△2点。

△「普遍性はなく」は、「時代や場所によって異なる」ことの言い換えとして認めるが、「複数存在すること」の説明がないので▲2点減点で△2点。

△「時代や場所によって異なり、普遍性はなく」は、「時代や場所によって異なること」と「普遍性がないこと」が同じことを指している、「複数存在すること」を説明していないので▲2点減点で△2点。

C 「と考えること」(4点)

※「見なす」の言い換え。

×「とみなす」は、言い換えていないので×0点。

問五 18点 (模範解答例)

A ○4点

「人間らしさ」は自然本性として人間に備わるものではなく、

B ○5点

歴史的存在である人間は

C ○5点

民族の違いなどによって変化するものである

D ○4点

という歴史主義の見方があること。(75字)

※A・B・C・Dに関して部分採点

A 「人間らしさ」は自然本性として人間に備わるものではなく(4点)

※Dの観点との対比で、「自然主義」の見方を否定する説明。

○「自然主義の見方と異なり、『人間らしさ』はもともと人間に備わったものではなく」も可。

△「永続的で普遍的な倫理があるのではなく」は、「自然主義」の見方・「自然本性」であることの説明が不十分であるので▲2点減点で△2点。

B 「歴史的存在である人間は」(5点)

※「歴史主義の見方」のうち、人間のあり方についての説明。

C 「民族の違いなどによって変化するものである」(5点)

※「歴史主義の見方」のうち、「人間らしさ」が変化するものであることの説明。

○「歴史的に、地域的に変化するものである」も可。

D 「という歴史主義の見方がある」と(4点)

※Aの観点との対比で、「歴史主義」であることの指摘。

△「という歴史主義のこと」は、傍線部「と主張する」を言い換えていないので▲2点減点で△2点。

△「という考え方は、傍線部」と主張する」を言い換えていないので▲2点減点で△2点。

二 (小説) 採点基準 (合計 60 点)

問一 各2点 (計6点)

- (1) ・周囲を気をかけず平気な様子。
・のんびりと現れるさま。
- (2) ・立て続けに働きかけた。
・続けざまにする。
- (3) ・不審に思った様子の。
・疑わしく思った様子で。

A ○4点

自分とは正反対の、

B ○4点

クラスの中心的な存在である男に

C ○4点

突然話しかけられた動揺を悟らなくなかったから。 (48字)

※A・B・Cに関して部分採点

A 「自分とは正反対の」(4点)

※「俺」と「男」の関係性(「俺」のあり方が「男」と正反対であること)の説明。

○(Bとの関係で、先に「俺」のあり方について説明して)「クラスで影の薄い自分とは逆の」も可。

△「自分とは真逆の」は、「真逆」はややくだけた言い方であるので▲1点減点で△3点。

B 「クラスの中心的な存在である男に」(4点)

※「俺」と「男」の関係性(「男」のあり方が「俺」と正反対であること)の説明。

○(Aとの関係で、「俺」のあり方に触れ、それと正反対であることが示されていれば)「男が」も可。

C 「突然話しかけられた動揺を悟らなくなかったから」(4点)

※A・Bの関係性の中、突然話しかけられたことに驚いての反応の説明。

○「急に話しかけられたことへの驚きを隠そうとしたから」も可。

問三 10点 (模範解答例)

A ○5点

「できる側とできない側の間にある」

B ○5点

「越える」とが困難と思われる無情な隔たり。 (36字)

※A・Bに関して部分採点

A 「できる側とできない側の間にある」(5点)

※「俺」と「男」の存在を抽象化して説明。

○「中心とその周縁の間にある」も可。

○「できる男とできない自分の間にある」と両者の具体的な関係性で説明しても可。

*Bの「線」の説明であるから「自分と男の間の」としたいところだが、Bを適切に説明できている答案は多くない可能性がある。それで、「自分と男の関係性」の説明ができていればAの観点で5点加点する。

B 「越える」とが困難と思われる無情な隔たり」(5点)

※傍線部の「認めるものか」が、Aの関係の間にある「線」であることの説明。

○「大きな差があること」も可。

×「男と自分の住む世界が違うこと」は、「線」の存在について触れていないので×0点。

問四 16点 (模範解答例)

A ○4点

大田の目元のほくろのよれを見て

B ○4点

高校時代に自分を意外なところで認めてくれたことを思い出して

C ○4点

忘れていたはずの名前が

D ○4点

無意識のうちによみがえったから。(73字)

※A・B・C・Dに関して部分採点

A 「大田の目元のほくろのよれを見て」(4点)

※「大田」を思い出すきっかけの説明。

B 「高校時代に自分を意外なところで認めてくれたことを思い出して」(4点)

※Aによって高校時代を思い出したことの説明。

△「高校時代を思い出して」は、(Cとの関係で)「認めてくれた」という点に触れていないので▲2点減点
で△2点。

C 「忘れていたはずの名前が」(4点)

※Bの関係(自分を認めてくれた大田)の後、問三のことがあって「俺」の記憶からその名前が消えたことの説明。
明。

△「忘れようとしていた名前が」は、実際に「消えてしまった」ことに反するので▲1点減点で△3点。

D 「無意識のうちによみがえったから」(4点)

※「反射的」の意味を踏まえた説明。

○「考えるよりも先に口をついて出たから」も可。

○「思わず言葉が出たから」も可。

○「不意によみがえったから」も可。

○「突然思い出されたから」も可。

△「無意識によみがえってしまったから」は、思い出したことに否定的なニュアンスが込められていると取れるので▲1点減点で△3点。

問五 16点 (模範解答例)

A ○4点

高校生の頃には継ぐことを嫌っていた古びた店を、

B ○4点

自分自身が再評価するきっかけを与えてくれた

C ○4点

大田の言葉に対する

D ○4点

感謝の気持ち。(60字)

※A・B・C・Dに関して部分採点

A 「高校生の頃には継ぐことを嫌っていた古びた店を」(4点)

※「心情の変化」の視点で、「店を継ぐ気がなかった」ことの説明。

B 「自分自身が再評価するきっかけを与えてくれた」(4点)

※「大田」の言葉(「続けてくれよ」)についての説明。

△「店をほめられたこと」は、「再評価」の内容であるが、それがきっかけになっていることの説明ができていないので▲2点減点で△2点。

△「それを変えた」など、AとBの内容が明確でないものは▲2点減点で△2点。

C 「大田の言葉に対する」(4点)

※Bの内容に含まれている、大田の言葉への気持ちであることの説明。

△「大田への」は、「言葉」について触れていないので▲2点減点で△2点。

D 「感謝の気持ち」(4点)

※「店を評価してくれたこと」「自分の意識を変化させてくれたこと」から「感謝」を説明。

*名前(「大田」)と表記上のミス「太田」や思い込み「田中」などのミスは1点減点

問(二)(1) 傍線の箇所を口語訳せよ。【4点】

〔該当傍線部〕 A1はやB1むつきばかりにC2みまかられ、
〔模範解答〕 A1すでにB1一月頃にC2お亡くなりになり、

「ポイント」

A【1点】はや ↓ すでに

※「もう・早くも・実は」でもよしとする。「早く・早い」などは×。

B【1点】むつきばかりに ↓ 一月頃に

※「一月」は「むつき・睦月」では×。

※「頃」は「ぐらい」でもよしとする。これに相当する表現がない場合は×。

C【2点】みまかられ、 ↓ お亡くなりになり、

※「死ぬ」+「尊敬」となっていればよい。「亡くなる」は「死ぬ」と同意と考え、「亡くなる」だけでは尊敬表現になっていないこととする。

※「死ぬ」の意がない場合は×。

※「死ぬ」の意はあるが、尊敬表現がない場合は【1点】。

問(一)(2) 傍線の箇所を口語訳せよ。 【4点】

「該当傍線部」 A2うつさでB2やみなん、

「模範解答」 A2描かないB2ままになってしまっただろう、

「ポイント」

A 【2点】うつさで ↓ 描かない

※「肖像画を」という補いの有無は不問。

※「描く・描き写す」+「打消」となっていればよい。

※「描く・描き写す」が、単に「写す」となっていて、「打消」が付いている場合は【1点】。

※「描く・描き写す」が「うつす・移す」などとなっている場合は×。

※「描く・描き写す」ができていても「打消」がない場合は×。

B 【2点】やみなん、 ↓ ままになってしまっただろう、

※「な」(助動詞「ぬ」未然形)の示す完了(〜してしまっ)や強意(きつと)の意の有無は不問とする。

※「そのままになる・それきりになる・終わる」の意+「推量」となっていればよい。

※「そのままになる・それきりになる・終わる」の意がない場合は×。

※「そのままになる・それきりになる・終わる」の意はあるが、「推量」がない場合は【1点】。

※「そのままになる・それきりになる・終わる」の意はあるが、「推量」が過去推量(〜しただろっ・〜してしまっただろっ)になっている場合は【1点】。

問(二)(3) 傍線の箇所を口語訳せよ。 【4点】

〔該当傍線部〕 A 1 蓉山が働き B 1 一時の間に C 2 むなしくなりぬる

〔模範解答〕 A 1 蓉山の労作が B 1 一瞬の間に C 2 消えてしまった

〔ポイント〕

A 【1点】蓉山が働き ↓ 蓉山の労作が

※「蓉山」は「内藤蓉山」でもよい。

※「の」は「が描いた」、もしくはそれに相当する表現でもよい。

※「労作」は「苦勞して描いた絵」などでもよい。

「苦勞」の意がない「絵」や、「絵」の意がない「苦勞」は×。

B 【1点】一時の間に ↓ 一瞬の間に

※「非常に短い時間の中で」の意が読み取れる表現であれば、「あっという間に・すぐに」などでもよい。

※「ほんの一時の間に」はよいが、意味が曖昧である「一時に・一時で・一時の間に」などは×。

C 【2点】むなしくなりぬる ↓ 消えてしまった

※「消える・な(無)くなる・消失する・焼失する」+「完了」(了してしまった)となっていればよい。

※右の状態で、完了の訳に「了してしまふ」がなく、「了した」となっている場合は【1点】。

問(二) 傍線の箇所之歌はどのようなことを言おうとしているのか。三十字以内で述べよ。【6点】

〔該当傍線部(和歌)〕 ちり過ぎし梅が香したふ秋にまた桐のひと葉をきくがかなしき

〔模範解答〕 A 2春と秋にB 3豊香父子が続けて亡くなり、C 1とても悲しいということ。(29字)

「ポイント」

A【2点】春と秋に

※Bが0点の場合は得点できない。

※「春に」や「秋に」など、片方しか書いてない場合は×。

※「春秋に」は意味が不明瞭な点があるので、【1点】とする。

B【3点】豊香父子が続けて亡くなり、

※「豊香父子が死んで」の意があれば【2点】。「豊香」だけ、または「息子」だけの死を言っている場合は×。

※右の意味がある上で、「続けて」の意もある場合は【3点】。

※「豊香」は「森田」、「父子」は「親子」でもよい。

また、「豊香父子」は「豊香(森田)と息子(子息・子)」、または、「森田(豊香)の親子」でもよい。

※「豊香(森田)」が明らかにない、「親子が・父と子が」などは×。

C【1点】とても悲しいということ。

※Bが0点の場合は得点できない。

※「とても」の有無は不問。

※「悲しい」の意があればよい。

問(三) 傍線の箇所は、だれがだれに対して、どのように言っているのか。その発言の根拠を明らかにしつつ、六十字以内で解釈せよ。【8点】

「該当傍線部」 まげてこたびそのことなし給へ

「模範解答」

A 1世は無常であり、B 2自分も近嶺もいつ死ぬか分からないので、C 3ぜひ今回肖像画を描かせてくださいと、D 2蓉山が近嶺に対して言っている。(60字)

「ポイント」

※説明の順は、文意が通っていれば、Dが先にある等、A B C Dの順でなくてもよい。

A【1点】 「理由」 ↓ 世は無常であり、 (一)ので

※Cが0点の場合は得点できない。

※「世(この世・人生・命・人間)は無常(はかないもの)であるので」という説明があればよい。

B【2点】 「理由」 ↓ 自分も近嶺もいつ死ぬか分からないので、

※Cが0点の場合は得点できない。

※「自分」は「蓉山(内藤)」でもよく、「近嶺」は「作者・筆者・沢」でもよしとする。

※右の両者が明らかになっておらず、「人は・誰でも」などとなっている場合は【1点】。

※「いつ死ぬか分からない」は「死ぬかも知れない」でもよしとする。

C【3点】 「内容」 ↓ ぜひ今回肖像画を描かせてくださいと、 (一)言っている。(

※Dで「蓉山が」がきている場合(Dが0点でも)のみ、得点できる。

※「ぜひ」の有無は不問。

※肖像画の修飾語としての「近嶺(作者・筆者・沢)の」という表現の有無は不問。

※「肖像画を描かせてください・肖像画を描かせて欲しい・肖像画を描きたい」の意があれば【2点】。

※右の意がある上で、「今回・今・すぐに」などがあれば【3点】。

D【2点】 「誰が誰に」 ↓ 蓉山が近嶺に対して言っている。

※Cが0点の場合は得点できない。

※「蓉山」は「内藤」でもよく、「近嶺」は「作者・筆者・沢」でもよしとする。

※「蓉山が」と「近嶺に」の両方ができていなければならない。

問(四) 傍線の箇所「・・・」とあるが、どのようなことを述べているのか。四十五字以内で述べよ。【7点】

〔該当傍線部〕 さてなんその言ひし言葉にたがはざりし

〔模範解答〕 A3老人なのでいつ死んでもおかしくないと言っていたB4蓉山が、その言葉どおり翌春に亡くなったこと。(45字)

〔ポイント〕

A【3点】老人なのでいつ死んでもおかしくないと言っていた

※Bが0点の場合は得点できない。

※「いつ死んでもおかしくないと」は「もうすぐ死ぬだろう」でもよい。

※①「いつ死んでもおかしくないと(もうすぐ死ぬだろう)と言っていた」があれば【2点】。これがない場合は×。

「言っていた」が「思っていた・考えていた・悟っていた」などになっている場合は【1点】。

※①の意がある上で、「老人なので」という説明があれば【プラス1点】。

B【4点】蓉山が、その言葉どおり翌春に亡くなったこと。

※②「その言葉どおり死んだ」の意があれば【2点】。

Aが得点できている場合限り、「その言葉どおり」は「本当に・実際に」でもよい。Aが得点できていない場合は×。

Aが得点できている場合限り、「死んだ」がない「その言葉どおりになった・本当にその通りになった」は【1点】。Aが得点できていない場合は×。

※②の意がある上で、「蓉山が」という説明があれば【プラス1点】。

※②の意がある上で、「翌春に(次の年の春に)」という説明があれば【プラス1点】。

Aが得点できている場合限り、「翌春」は「春」でもよい。「来春」は、Aが得点できていても×。

問(五) 傍線の箇所「・・・」とあるが、このことを筆者は、具体的にはどのようなことから感じとっているのか、本文の内容に即して三十五字以内でまとめよ。【7点】

〔該当傍線部〕 定めなきは世のならひ

〔模範解答〕 A 4 思いがけず豊香父子や蓉山が亡くなり、B 3 肖像画までも火事で焼失したこと。 (34字)

〔ポイント〕

A 【4点】 思いがけず豊香父子や蓉山が亡くなり、

※ 「豊香」は「森田」、「父子」は「親子」でもよい。

また、「豊香父子」は「豊香(森田)と息子(子息・子)」、または、「森田(豊香)の親子」などでもよい。

※ 「蓉山」は「内藤」でもよい。

※ 「豊香父子」と「蓉山」の書かれている順は逆でもよしとする。

※ 「思いがけず」は、これと同内容の表現であれば「思ってもいなかった・不慮の」等でもよく、世の無常をいう「はかなく・むなしく」などでもよい。

これに相当する説明がない場合は【3点】。

B 【3点】 肖像画までも火事で焼失したこと。

※ 「肖像画が焼失した」の意があればよい。この意があれば「火事で」はなくてもよい。

※ 「焼失した」は「火事で消えた・燃えてなくなった」などでもよい。

※ 「焼失した」が「消えた・なくなった」の意がない「燃えた 焼けた」になっている場合は【2点】。

※ 「焼失した」が「燃えた 焼けた」の意がない「消えた・なくなった」になっている場合は【1点】。

四 漢文 (40点)

問1

(各3点×2＝計6点)

- (一) すなわち／すなはち …………… 3点
(二) いづくんぞ／いづくんぞ …………… 3点

※歴史的仮名づかいでも、現代仮名づかいでも、どちらでもよい。

問2

(各6点×2＝計12点)

- ※「漢字かな混じり」「カタカナ書き」「ひらがなカタカナ混じり」 ↓ × (0点)
※ 答案が未完成の場合は ↓ × (0点)
※ 書き下し文ではなく口語訳を答えているもの ↓ × (0点)
※ 現代仮名づかいでも、歴史的仮名づかいでも、どちらでもかまいません。
- (三) ただにしん / のみにあらざるなり
(のみにあらず)

次のように、2分割して採点する。

- A 「ただにしん」…………… 3点
B 「のみにあらざるなり」「のみにあらず」 …… 3点

※(A) ↓ (B) の順番で並んでいることが加点の条件。

- (四) またひとり / なんぞしんに / ことならん(や)

次のように、3分割して採点する。

- A 「またひとり」…………… 2点
B 「なんぞしんに」…………… 2点
C 「ことならん(や)」…………… 2点

※(A) ↓ (B) ↓ (C) の順番で並んでいることが加点の条件。

- ※ 口語訳ではなく書き下し文を答えているもの ↓ × (0点)
 ※ 全体的に意味不明な答案・模範解答から遠い答案 ↓ × (0点)

秦を非難する者が / ますます多くなり、

/ 結局、秦が彼らに勝てなかったのは / なぜか。

- ※ 次のように、4分割して採点する。なお「×0点」は「その部分は加点数なし」の意。

- A 「秦を非難する者が」 1点
 B 「ますます多くなり」 2点
 C 「結局、秦が彼らに勝てなかったのは」 1点
 D 「なぜか」 2点

【各加点要素の加点の条件】

- (A) 「秦を非難する者が」 1点
 ※ 「非る」を「非難する」「批判する」など、正しく訳出していること。また「秦を」と「之」の指示内容を明示していること。
 (B) 「ますます多くなり」 2点
 ※ 「愈(いよいよ)」を「ますます」など、正しく訳出していること。
 ※ 「」の有無については不問。「」はなくてもよい。
 (C) 「結局、秦が彼らに勝てなかったのは」 1点
 ※ 「終」を「結局」「とうとう」「最終的に」など、正しく訳出していること。また「秦が彼ら(民衆)に」を補っていること。
 (B) 「なぜか」 2点
 ※ 「何哉」を「なぜか」「どうしてか」「どういうわけか」など、正しく訳出していること。

- ◎全体的に意味不明な答案・模範解答から遠い答案 ↓ ×0点
 ◎「…心」「…考え」という基本路線に沿っていない場合 ↓ 1点減点

秦の / 民衆を君主側の価値観に

/ 暴力的に従わせようとする心。

次のように、3分割して採点する。なお「×0点」は「その部分は加点なし」の意。

- A 「秦の(心)」……………2点
 B 「民衆を君主側の価値観に(従わせる)」……………3点
 C 「暴力的に従わせようとする心」……………3点

【各加点要素の加点の条件】

(A) 「秦の(心)」……………2点

※① 「秦の心」と明示してあること。「秦の君臣」「秦王朝」「秦の政府」などでも可。

※① 「秦の始皇帝」「秦の皇帝」など、「皇帝」に絞っている場合 ↓ ×0点

(B) 「民衆を君主側の価値観に(従わせる心)」……………3点

※ 「国家が民衆に上から価値観を押しつける」「政府が自分たちの主義を民衆に強制する」など、国家が民衆⇨個人の主義主張を踏みにじり、自分たちの考えを盲信して、それを押しつけている点を表現できていること。現代でいえば、「思想信条の自由」の侵害とか、全体主義的国家体制とかに当たることが書いてあること。

(C) 「暴力的に従わせようとする心」……………3点

※ 「民衆を暴力によって服従させる」「強硬手段によって民衆に思想を強制する」など、焚書や弾圧といった露骨な暴力的手段で思想統制を行っていた点を表現できていること。

国民に思想を押しつけるといっても、「学校教育を通じて」「プロパガンダによって」といった比較的穏健な手段もある。解答としては、反国家的書物の焼却処分(焚書)や反政府分子の投獄・処刑(坑儒)を踏まえ、「強硬手段⇨暴力によって思想統制をした」に言及する必要がある。

※ 余計な記述があった場合

▽本文の内容と矛盾せず、解答の内容を変えない場合 ↓ 不問

▽本文の内容と矛盾する、論理的に不自然になる場合 ↓ 各1点減点

▽余計な記述のせいで答案全体が意味不明になった場合 ↓ 全体0点

(見逃してもいい⇨不問 / ひどくはないが、見逃せるほどでもない⇨マイナス1点 / ひどすぎる⇨0点、という感じです)

- ◎ 全体的に意味不明な答案・模範解答から遠い答案 ↓ ×0点
 ◎ 「:」から「:」の「で」という基本路線に沿っていない場合 ↓ 1点減点

秦は人々に暴力的に価値観を押しつけたが、／

それが道義に反したものであれば人々は従わず、／

自ら道義心を育てて悪政に打ち勝つことを

わかっていなかったから。

※ 次のように、3分割して採点する。なお「×0点」は「その部分は加点なし」の意。

- A 「秦は人々に暴力的に価値観を押しつけたが」……………2点
 B 「それが道義に反したものであれば人々は従わず」……………3点
 C 「自ら道義心を……わかっていなかったから」……………3点

【各加点要素の加点の条件】

(A) 「秦は人々に暴力的に価値観を押しつけたが」……………2点
 ※ 「人々に暴力的に価値観を押しつけても(うまくいかない)」「強硬手段に出て価値観を強制しても(うまくいかない)」「いくら民衆の思想を統制しても(うまくいかない)」「自分の考えに従わないからといって思想弾圧を繰り返しても(うまくいかない)」に何らかの形で触れていればよい。

(B) 「それが道義に反したものであれば人々は従わず」……………3点

※① 「国が強制した思想が道義に反していれば」「政府が押しつけた価値観が『性命の理』に反していれば」「国家が押しつけようとした価値観が心に自然とわく道義心に合わないならば」 ↓ ② 「人々は従わない」「人々は服従しない」「人々は抵抗する」「人々は拒絶する」「人々は洗脳されない」など、(どれだけ思想統制をしても)その思想が道義に反するならば、人々はそれに抵抗する、ということに何らかの形で触れていればよい。

※ たとえば、ヒトラーがさまざまな手でナチズムを民衆に押しつけようとしても、ドイツの民衆は自らの良心に従って、ユダヤ人排斥をはじめとする反倫理的なナチズムに強く抵抗し、やがてナチズムを打倒する、というシナリオを思い浮かべるとわかりやすい。

(C) 「自ら道義心を……わかっていなかったから」……………3点

※① 「民衆は自分の道義心に従って行動し、悪政に打ち勝つ」「民衆は自分の道徳観にもとづいて行動し、悪の王朝を打倒する」「民衆は自分の良心に従って行動し、悪の政府を粉砕する」ことを ↓ ② 「秦は理解していなかったから」「秦はわかっていなかったから」と何らかの形で触れていればよい。

※ 「道義・道徳に反する思想をいくら強制しても、民は自らの良心に従って抵抗し、結局、道義にそむく」王朝は打倒されてしまうことを秦が理解していなかった」がポイント。

※ 余計な記述があった場合

▽本文の内容と矛盾せず、解答の内容を変えない場合 ↓ 不問

▽本文の内容と矛盾する、論理的に不自然になる場合 ↓ 各1点減点

▽余計な記述のせいで答案全体が意味不明になった場合 ↓ 全体0点
(見逃してもいい) || 不問 / ひどくはないが、見逃せるほどでもない || マイナス1点 / ひどすぎる || 0点、
という感じですよ)